

足下に泉あり

日本雪工学会上信越支部と当市の主催で開催した「第37回雪のシンポジウム」。圧巻は、小泉進次郎衆議院議員による「雪国から始まる、環境と経済が一つになる時代」と題した基調講演でした。聴衆を一気にひきつける爽やかな弁舌。この人が話すと本当にそうなる、と思ってしまう説得力。天才をみる思いがしました。

お付き合いの始まりは、環境大臣だった当時の小泉さんを大臣室に訪ね、「雪の活用は暑さ対策で五輪にも寄与できるが、本旨は地方創生であって、代替エネルギーとしての将来性も大きい」と訴えたことでした。その後も、「ぜひ現場を視察されませんか」とお誘いしていたのです。今回、形を変えて現実に。パネルディスカッションでは、魚沼地域の取り組み紹介に真剣に耳を傾けておられました。

今や貯蔵・熟成など大型雪室倉庫は市内に12棟。隣市工業団地への企業進出など、魚沼圏域は国内トップレベルで雪冷熱利用の産業化が進んでいます。小泉さんは、「地球温暖化の大課題に雪の持つ

力や可能性が極めて有効だと改めて知った。脱炭素や持続可能な社会モデルの実現に大いに寄与して欲しい」と。私たちの思いを代弁してくれているかのようで、5年に及ぶ取り組みに一つの到達点を見た思いがしました。

大災害時に電力が喪失しても稼働できる冷蔵倉庫。上越魚沼地域振興快速道路や国道バイパス、狭隘な老朽化した三国トンネルなど県境の課題解決に向けて進む歴史的な事業。関東圏との入り口にある南魚沼の交通の要衝化は着実に進みます。

その中で雪の活用、産業化はどうあるべきか。有史以来苦しみの対象でもあった雪が、救世主となる好機かもしれない。化石燃料費の高騰などに左右されない街。最終的な形は、市民生活が当たり前に自然由来のエネルギーで賄われている姿を夢想するのです。足下に泉あり。持てる宝で勝負すべき。小泉さんはそう言われている、と聞き入っていました。

シリーズ
第116回

国際大学留学生

お国自慢コーナー～boast of my country～

パプアニューギニア独立国 エイミー クリさん



私の国はこんなところ

パプアニューギニアは太平洋南西部に位置し、ニューギニア島の東半分とその沖合の島々を含みます。公用語は英語ですが、800以上のネイティブ語が話されています。三大食材は、日本のサツマイモによく似たカウカウ、パンノキ、バナナです。必ず訪れてほしい場所は、ココダ・トレイルです。第2次世界大戦の旧日本軍の戦跡でもある山岳ルートで、35種のゴクラクチョウやシンボルともいえるビンロウ樹などの多様な生物を楽しめるほか、難破した潜水艦や爆撃機の残骸などの戦跡を観ることができます。壮観なサンゴ礁やビーチもあります。

南魚沼市に住んで感じたこと

私の南魚沼でのお気に入りの体験は、第一に、雪にほかなりません。昨年、初めての雪体験でかまくら作りの手伝いをして、すっかり雪に魅了されました。第二に、南魚沼の人々はとても礼儀正しく、地元のコミュニティに溶け込みやすいです。第三に、地元の農家さんの作業を日々見て、農作物の生産方法を学んだことです。きれいに区画整備され、あまり多くの土地を必要とせずに生産されていることは発見でした。



編集後記

12月となり、本年も残すところあと1か月となりました。1年はあっという間ですね。この時期になると毎年ついそう言っている気がします。これから冬の季節、雪国ならではの楽しみ方を探し、日々を大切に過ごしていきたいと思っています。あわただしい年の暮れ、どうぞお健やかに過ごしてください。(S. K)

今月の表紙

11月9日(水)、上町保育園の年長児10人と1日消防署長に任命された南魚沼市国際交流員のゾーイ・ライズさんが、防火パレードに参加しました。園児たちはお揃いの法被に身を包み、拍子木を打ちながら「火の用心」と大きな声をあげ、地域の人たちに防火を呼びかけました。

市民の動き 令和4年10月末日現在 ()は対前月比

●人口 54,065人(-20)／男26,457人(-13) 女27,608人(-7) ●世帯数 20,274戸(+18)